

# 佐渡米通信

# こめ〜る

2020年 11月号

発行日:2020年11月

編集人:佐渡農業協同組合 営農事業部販売企画課 藤巻・渡辺  
jasadoeinoubu20@dune.ocn.ne.jp

## 令和2年産米の集荷・検査状況について

10月15日現在、コシヒカリの1等米比率は71.5% (昨年のコシヒカリ1等米比率は50.6%)となっています。

今年はカメムシの多発予想で、県やJAから注意が呼びかけられていましたが、畔の草刈りやカメムシ防除を徹底して行ったため、カメムシによる被害を抑えることができました。

また、8月に高温に見舞われましたが、生産者による佐渡米未来プロジェクトの参加や土づくりへの尽力により、乳心白粒や基部未熟粒の発生を抑えることができました。



## 田植えの分もはりきって!

10月3日、田んぼアートで稲刈りが行われました。毎年島内外から多くの方が参加する田んぼアートの稲刈りですが、今年はコロナウイルス感染予防として、検温やマスクの着用などを徹底して行いました。

田んぼアートの稲刈りでは、絵柄の部分だけを手刈りし、他の部分はコンバインで刈っていきます。刈った稲は畔に集められ、参加者によるはざ掛け体験が行われました。今年は田植えに参加できなかった分、参加者は稲刈りとはざ掛けを楽しんでいました。



## 雨にも負けずに大はしゃぎ!

Kids生きもの調査隊では、子ども達に朱鷺を含めた田んぼの生きものたちと共生する米作りを学んでもらうため、毎年生産者の田んぼを借りて稲作りを行っています。今年も5月に田植えを行い、9月27日に稲刈り、10月11日に脱穀作業が行われました。稲刈りでは前日の雨で田んぼがぬかるんでいましたが、泥はねも気にせず田んぼに突撃して稲刈りをしていました。また脱穀作業では、はざ掛けをして乾燥させた稲をコンバインや千歯こきで脱穀していきました。子ども達は足で千歯こきを抑えながら、楽しそうに脱穀を行っていました。



## 佐渡代表の秋の味覚

佐渡を代表する果物「おけさ柿」は、民謡の佐渡おけさに由来しています。今年は色付きが少し遅れていますが、全体的に平年よりも大玉になっています。おけさ柿は10月8日から初売りされ、10月中旬から11月上旬頃が販売最盛期となります。おけさ柿の購入はスーパー、郵便局のほか、JA佐渡通販からご購入できます。

10月下旬からはあんぼ柿や干し柿も出始め、12月頃に最盛期を迎える予定です。

